



2019.6.27



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

====目次=====

1■ともに生きる：さいたま市から■

外国籍・外国につながる親子を支える地域日本語教室の実践
—保育園・小学校との連携—
地球っ子クラブ 2000 代表 高柳なな枝

2■高校進学進路ガイダンス情報（6、7 月）■

3■お知らせ（1）■

「2019 年度 日本語教師のための夏の教え方講習会」のお知らせ

4■お知らせ（2）■

「AJALT 公開講座」のお知らせ

=====

1■ともに生きる：さいたま市から■

地球っ子クラブ 2000（以下「地球っ子」さいたま市）は、日本語を母語としない親子の日本語教室です。外国にルーツをもつ子ども達やその保護者が、本来持っている力を活かして生き生きと日本で生活できることを目的に、2003 年に活動を開始しました。日本語学習だけでなく、互いの母語や母文化を大切に、個性や才能を地域社会に発信できる機会も積極的に作っています。また、2016 年からは学校や保育園と連携することで、地域全体で協働して問題解決にあたる実践を数多く行っています。代表の高柳さんに、活動の一端を紹介していただきます。

.....

外国籍・外国につながる親子を支える地域日本語教室の実践

— 保育園・小学校との連携 —

◆ 文化的背景の違いが問題の原因になることも

「地球っ子」に来る親子からは、日本語や学校の勉強が理解できず不安だという声は当然のこととして聞こえてきます。加えて、保護者が学校からの通知や手紙の内容がわからないために、期限内に提出物が出せなかったり、忘れ物が多かったりする状況も見聞きます。また日常の日本語はできる保護者でも、保護者が過ごしてきた母国での学校生活と日本の学校生活との違いに対応することは難しいようで、このことがしばしば教育現場や日本人保護者の間で問題になってしまうこともあります。これは、文化的背景が異なるために外国人保護者に学校からの連絡や通知の内容が十分に伝わっていないことが原因で起きるのですが、学校をはじめとした受け入れ側である日本人が気づいていないことが多いのです。

◆ 「多文化の子どもを支える地域の協議会」の開催

日本の公立小中学校に外国籍・外国につながる児童生徒が増えていく中、多文化共生の学校を築こうとすると、外国籍・外国につながる親子が日本語を学ぶだけでは問題は解決しません。彼らだけが努力すれば済む問題ではないのだと言えます。また地域の日本語教室が日本語教育をはじめ、参加者に必要な情報や場を提供することは当然のことですが、日本語教室だけでできることには限界があります。さまざまな機関と連携し、学校を含めた地域の日本人に外国籍・外国につながる親子の状況やサポートの仕方についての理解を深め変容を促す取組を行うことが求められるのではないかと考えました。そこで2016年から、地球っ子が活動拠点としている公民館の館長や、その近隣の保育園園長、小学校校長、教育委員会などと連携体制をつくることを目指して「多文化の子どもを支える地域の協議会」を年2回ずつ開催し、各現場の現状や、外国籍・外国につながる子どもや保護者への対応の工夫などについて情報交換を行うようになりました。

◆ 保育園や小学校との連携事業

協議会で課題について話し合ったり理解を深めたりするだけではなく、協議会をきっかけにして保育園・小学校とさまざまな連携事業が行われることにな

りました。小学校では、外国出身保護者にとって記入が難しい「就学時健康診断票」の記入をサポートしました。また、入学説明会で行われる「子育て講座」を担当し、日本人保護者が気づかない外国人保護者の感じる「難しさ」「わからなさ」について、クイズ形式で講演をしました。保育園では多言語おはなし会や職員研修を行いました。多言語おはなし会は、いろいろな言語に親しんでもらうことを目的としていますが、その保育園に在籍している外国出身保護者にも飛び入りで前に出て簡単な挨拶を教えてもらうなど、外国出身保護者に活躍してもらうことも狙いとしています。職員研修では、外国籍や外国につながる子どもが増加している中で、職員がどんなことに配慮していけばいいか考える機会をもちました。

◆ 連携と協働による地域のつながりを目指して

今回の連携で、異なる学校文化に戸惑う外国出身保護者をサポートし、文化的背景の違いから生じる問題への、保育園や小学校関係者の気づきをサポートし、そして地域が一体となるつながりを形作ることができました。日本の子どもにとっても外国籍・外国につながる子どもにとっても学びのある居心地のいい地域・学校にしていくために、外国人、地域日本語教室、保育園や学校の三者が別々に努力するのではなく、連携し協働していくことが求められています。地球っ子は、今後も保育園や学校と継続してつながりを持ち、相談や連携ができるような関係性を構築していきたいと思っています。

☆地球っ子クラブ 2000 の詳しい活動内容については、以下の HP も是非ご覧ください。

<https://chikyukkoclub2000.blogspot.com/>
